

# 文献ゼミ

『建築論』 森田健一著

建築論概説

四 超越性の問題

p.64-p.70

# 建築における超越性

建築…物理的な物体として現実に存在する

同時に超越的な何かを意識させるシンボル



建築の超越性とは

空間が超越的な色合いを帯びること

(神々しい、聖なる、神秘的)

宗教建築に多く見られるが、非宗教建築にも存在する

# 建築における超越性

建築の超越性

例、茶室

茶道の一施設

→四畳半

魂を神的状態、禅の境地にまで連れていく

→途方もない広い空間

# 原始建築における超越性

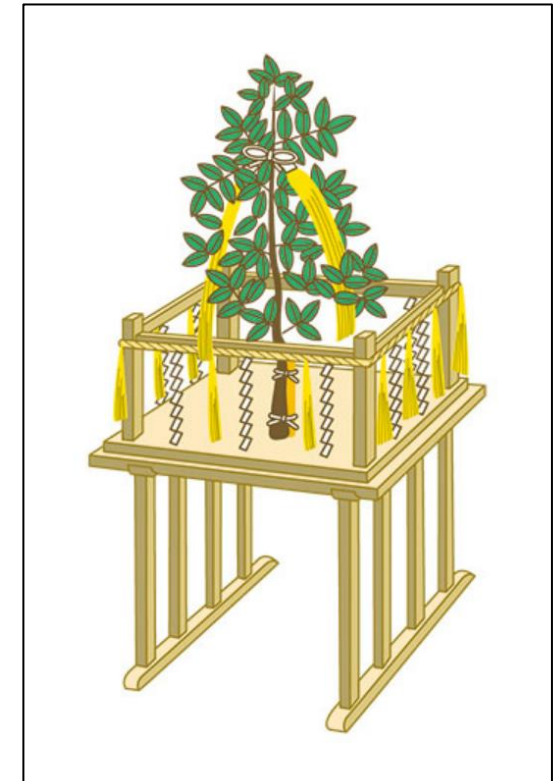
建築の起源…二元説

事物的なシェルターの造成  
超越的なシンボルの構築

例、巨石構築物、ひもろぎ（神籬）

…呪術的に聖化された空間のシンボル  
周辺にも放射する空間の広がり

原始的な生活の中では、呪術的信念によりタブー的構造が伝承されている



ひもろぎ

# 宗教建築における超越性

宗教建築…宗教儀礼の場

聖なる存在を担う空間

例、ゴシックの大聖堂

多くの観光客にとっては芸術作品

信者にとっては神の国、超越的な世界を現前させるシンボル

# 宗教建築における超越性

例、仏教寺院

仏の国浄土は、神秘的であるよりも美しい国

仏教建築の超越性

建築そのものではなく、仏堂の事物（仏像、仏画…）

超越性の希薄さ



中国の宮殿建築を写した、仏教建築の形式

# 建築の超越的な存在様態の特色

原始建築…呪術に結びついた状態で発現



宗教建築…芸術的現象と結びついて発現

= 現象的存在を通して超越的存在が意識される

美しい空間が聖なる空間と重なり合い、放射する

宗教建築は聖なる存在であると同時に、芸術作品として作られることを欲する